

吉賀町体育協会

これまでのあゆみ

昭和31年に六日市町体育協会が、昭和33年頃に柿木村体育協会が発足した。

昭和57年の「くにびき国体」で六日市町が山岳競技の会場になったことなどを契機に、組織拡大・強化され、各種競技連盟が組織された。

また、スポーツ少年団やレクリエーション団体も加入し、競技力向上や指導者育成が行われてきた。その後、平成18年4月の町村合併に伴い、吉賀町体育協会が発足した。

町体育協会では各種事業を展開しており、その中でも春の「よしか・夢・花・マラソン」や秋の「吉賀町駅伝大会」を町の恒例行事として定着させるなど、町のスポーツ振興を推し進めてきた。



第18回よしか・夢・花・マラソン

現在の状況

現在は、5地区の地区体協、6つの競技団体、4つのスポーツ少年団が加盟している。合併時から会長を務める、山崎愼一会長を中心に、積極的な活動を行っている。協会の活動のみならず、加盟団体においてもさまざまな活動を実施しており、日ごろの練習はもとより、各種大会の実施運営等も行っている。

なかでもスポーツ少年団を始めとする青少年の活躍は目覚ましく、全国大会等の上位大会への出場も多く見られ、町の活性化へ貢献している。

当協会としては、各加盟団体が安心して事業に取り組めるよう支援をしている。

これから

2030年に開催される第84回国民スポーツ大会「島根かみあり国スポ」のサッカー競技会場となり、準備を進めている。もともとサッカーが盛んな地域で、人工芝のグラウンドが整備されており、機運醸成や人材育成に向け各種事業を展開していく予定である。



吉賀町真田グラウンド よしかみらい

当協会も御多分に洩れず、人口減少や少子高齢化の影響は顕著であり、運営に支障をきたしている団体も出てきているが、構成団体と協力しながら、町民の健康増進や社会体育の普及による地域社会の活性化に寄与したいと考える。

それには吉賀町が教育の核として取り組んでいる「サクラマスプロジェクト」により還って来るであろう若者の活躍が必須であり、大いに期待をしているところである。



サクラマスプロジェクト